

りんくうブロック・豊中・明石教会堅信式

# 真の友情を深めて

2022年の11月には、りんくうブロック・豊中教会、明石教会で、合計24人の堅信式が行われた。コロナ禍により、ブロックではなく小教区ごとに堅信式が行われる傾向にある。各地の喜びとお祝いの声を届ける。



りんくうブロック

## りんくうブロック

りんくうブロック(貝塚・泉佐野・熊取教会)では6日(日)9時半、泉佐野教会で9人が堅信の秘跡を受けた。酒井俊弘司教とフラビオ・ベスコ神父の司式。中高生の受堅者を子どもの頃からよく知る共同体の全員がその成長を喜び、堅信式とともに与れる喜びに満ちたミサとなった。

主司式者の酒井司教は「私たち信者にとってイエス様こそ、真の親友です。そして友情を深めるには話をし、友達のために時間を裂くことが大切です。ミサに与ることは、イエス様と話し、時間を裂くことです」と受堅者に語りかけた。

### 受堅者の感想

「ミサの雰囲気がいとも違っていて緊張した。司教様と初めてお話ができてうれしかった。堅信の準備の勉強をしたみんなと一緒に堅信を受けることができてよかった。堅信を受けて一人前のキリスト者として責任を感じた」

## 豊中教会

13日(日)10時から豊中教会で8人(成人3人、中学生4人、小学生1人)の堅信式が行われた。司式は酒井俊弘司教と野田正弘神父。コロナ禍のため、参加者は堅信・七五三の祝福の関係者70人に制限した。

酒井司教は説教で「堅信とは靈魂に限りない恵みを刻み込むこと。その恵みはスイッチを入れないと動かないのだから、堅信をただ受けるだけでなく自ら行動しよう。平和の道具になれるよう神に願おう」と呼びかけられた。



豊中教会

雨模様での開催となったが、とても家族的な雰囲気が中行われた。また、コロナ禍でできないパーティーの代わりに聖堂に明るく華やかな飾り付けをして信徒全員のお祝いの気持ちを表した。ミサ後は、酒井司教と家族ごとに写真を撮ったりして、和やかな時間を過ごした。

### 受堅者の感想

「緊張したがとても感動した」「按手のときは胸が熱くなった」「皆が飾り付けをしてくれてありがたかった」「素敵な堅信式をしていただきありがとうございます」

## 明石教会

「王であるキリスト」の主日の20日(日)10時から、前田万葉大司教と高橋聡神父の司式で明石



明石教会

教会で7人(小中学生・成人)の堅信式を行った。

前田大司教は「堅信の秘跡では、キリストのあかし人」として福音を伝える力をいただくために聖霊の恵みを受ける。キリストはご自分の命を犠牲にしてまで人間を愛された。神と人間を十字架によって繋がれた。このキリストの姿に倣うことがキリストのあかし人となるということ」と説明。「オリリーブの香り 聖霊降臨す」という句を受堅者に贈った。

7人の受堅者は緊張しつつも司教から塗油を受け、力強く「アーメン」「主の平和」と答え、自らキリスト者として生きる決意を表していた。

### 受堅者の感想

「今日の堅信に向けての学びを活かし、神様の道をしっかりと歩んでいきたい。そして、日々の多くの出来事の中に聖霊の働きがあることに感謝し、神様に思いを寄せる時間をもてるようにしたい」



司牧者がリレー形式で若者たちにぜひ読んでもらいたい書籍を紹介し、青年たちの読書感想文を掲載する連載。今回は、松浦信行神父(梅田ブロック・サクラファミリア)が担当。

## 松浦信行神父からこの一冊



『ジョークとトリック 頭を柔らかくする発想』(織田正吉著、講談社新書706、1983年、税込946円)

2019年の11月、ローマ教皇フランシスコが訪日。最終日、日本のイエズス会本部を訪問した。そこで実現したのが、教皇とイエズス会の元総長アドルフ・ニコラス師との出会いである。ニコラス師の総長時代、当時アルゼンチンで軍事政権との微妙な舵取りをしてきたホルヘ・マリオ・ベルゴリオ師(現教皇フランシスコ)と一部のイエズス会士との間にあった摩擦を解

消するために、ニコラス師が助け船を出していたと聞いたことがある。

そのニコラス師の、東京カトリック神学院での授業、神が人間を救うためになされた人格的出会いを論じる「啓示論」の教科書のひとつがこの新書本である。たぶん、神がご自身を私たちに示される「交わり」を、人間の既存の考え方にとどまることなく、柔らかい発想を持って捉えるようにとの親心から、ニコラス師がこの新書本を教科書にしたのではないかと今になって思う。

例えば(私はこの話を中高生の錬成会によく使うのだが)、次の問い。「急な上り坂で、重い荷車を引っ張り上げようとする人と後ろから押す人がいる。前の人に『後ろの人はあなたの息子さんですか?』と聞くと『そうです』と答える。後ろの人に『前の人はあなたのお父さんですか?』と聞くと『いいえ、違います』と答える。この二人の関わりは?」答えは「息子とお母さん」。「急な坂道」と「重い荷車」ということで、知らないうちに2人とも男性と考えてしまう私たちの傾向が見て取れる。

第2例は、「夜のビルで2人のガードマンが見張りをしている。1人は東を向いて、もう1人は西を向いている。1人が『君の服の上から2番目のボタンが外れている』と指摘した。どうしてそれが分かったのだろうか?』という問いだ。答えは、「二人は向き合っていたから分かった」。つい

「背中合わせに」と思ってしまう人間の心が、答えを不明にしてしまうことがある。

ジョークは笑いによって私たちの固定観念の枠を壊し、知性を刺激すると著者は私たちに問いかける。発想の自由さが神を見つめることだ、とのニコラス師の心は私の中に生きている。



今回は、Srグロリア・エリシソリアルダナ(梅田ブロック)です。

## 若者の読書感想文募集

- ① 年齢は35歳まで。カトリック信者、もしくはカトリック教会と何らかの関係がある方(カトリック校や諸施設の在籍者又は卒業生、保護者、関係者など)。
- ② 感想は400字程度。氏名、所属、顔写真(自由)を添えてメール(jiho@osaka.catholic.jp)か郵便にて送付(掲載にあたり編集する場合あり)。
- ③ 感想を送ってください。た方全員に教区オリジナルしおり(4枚組)を進呈いたします。